

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名	済生会宇都宮病院		NHO栃木医療センター		NHO宇都宮病院		JCHOうつのみや病院		
保健医療圏	宇都宮		宇都宮		宇都宮		宇都宮		
区分	公的、地域医療支援		公的、地域医療支援		公的、地域医療支援		公的		
策定期	H29(2017).10(H30(2019).02修正)		H29(2017).09(H30(2019).02修正)		H29(2017).10(H30(2019).02修正)		H29(2017).10(H30(2019).02修正)		
病床数	許可	稼働	許可	稼働	許可	稼働	許可	稼働	
	計	644	644	350	350	380	370	245	193
一般	644	644	344	344	350	340	199	147	
療養							46	46	
結核					30	30			
精神									
感染症	↓ICU/CCU分16床を加えてある		6	6					
一般および療養病床のうち機能別の病床	高度急性期	484	484	12	12				
	急性期	176	176	332	332	140	130	199	
	回復期					60	60	46	
	慢性期					150	150		
診療科数	29		27		17		18		
特定の病床数 (H28病床機能報告より)	救命救急	9							
	集中治療室(ICU)	16							
	ハイケアユニット(HCU)			12					
	脳卒中ケアユニット(SCU)								
	新生児特定集中治療室(NICU)	8							
	新生児治療回復室(GCU)	10							
	小児特定集中治療室(PICU)								
	総合周産期特定集中治療室(MFICU)								
	地域包括ケア病棟			52		60			
	回復期リハビリテーション病棟							46	
緩和ケア病棟	20								
常勤職員数	医師	167		70.8 (現員数)		28		34	
	看護職	754		273.4 (現員数)		257		171	
	その他医療専門職	211		121.8 (現員数)		96		79	
医療機関の現状と課題	外来患者数	延べ359,695 [人/年] (H29年度)		新入院7,432 [人/年] (H29年度)					
	入院患者数	延べ216,578 [人/年] (H29年度)							
	一般・療養病床稼働率	92.1% (H29年度)		81.4% (H29年度)		83.7% (H29年度)		77.9%	
	一般病床平均在院日数[日]	12.3 (H29年度)		12.8 (H29年度)		32.7 (H29年度)			
	救急患者数	15,028 [人/年] (H29年度)		救急車受入3,297 [件/年] (H29年度)					
	手術件数	595 [件/月] (H29年度)		3,869 [件/年] (H29年度)					
	うち全麻	362 [件/月] (H29年度)						582 [件/年]	
特徴、政策医療(抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県における地域中核病院としての役割を担っている ・栃木県の救命救急センターを受託運営して、重症救急患者の治療の救急専従医を中心とした24時間体制で行っている ・栃木県内では唯一のDPC特定病院群の指定を受けており、地域の高度急性期医療を担う存在 ・子育て世代の家庭を支援するため、地域型保育施設および病児保育施設を開園 ・とちぎ性暴力被害者サポートセンター(とちエール)・認知症疾患医療センターの受託運営 ・医療だけでなく福祉分野においても地域貢献に取り組んでいる ・地域がん診療連携拠点病院・急性期のみならず終末期にも対応 ・第3次救命救急センターとして・神経内科、脳神経外科を有し、血栓溶解療法(t-PA治療)にも対応 ・心疾患集中治療室(CCU)も5床整備 ・糖尿病内分泌科を中心に、外来、入院医療 		<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮医療圏の中心的な急性期病院 ・総合診療が可能 ・二次救急輪番病院、地域医療支援病院、第2種感染症指定医療機関としての役割 ・栃木県D-MAT指定病院となっており、災害拠点病院として ・地域包括ケア病棟を7対1看護基準の一般病棟へ施設基準を変更し、より重症度の高い救急患者の受入が可能となる体制を整備 ・栃木県がん治療中核病院として放射線治療専門医を2名採用 		<ul style="list-style-type: none"> ・急性期・慢性期・回復期・という性格の異なる3つの領域を診療しているケアミックス型の病院 ・栃木県がん治療中核病院・地域医療支援病院として承認 ・救急医療においては、宇都宮・のみならず県北、県東・からも積極的に受入・政策医療である結核、重度心身障害、神経難病についても県外からの受入れ ・骨・運動器疾患に関する専門医療、成育医療(小児慢性疾患)に関する専門医療、重度心身障害に関する専門医療、肝疾患に関する専門医療、結核の拠点施設・エイズ治療専門協力病院 		<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市南部地区の中核病院として、急性期医療から回復期リハビリ、介護老人保健施設が集約されており、更に地域包括支援センターを設けシームレスに医療・介護のサービスの提供 ・回復期リハビリ病棟は・当院の重要な機能 ・宇都宮市南部地域の二次救急輪番病院 ・災害拠点病院 ・二次救急輪番病院(小児科を含む) 		
	済生会宇都宮病院		NHO栃木医療センター		NHO宇都宮病院		JCHOうつのみや病院		

<p>特徴、政策医療(抜粋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科病床は有していないが、外来診療を実施 ・認知症疾患医療センターの指定 ・救急専従医を中心として24時間体制で取り組み ・救命救急センターは救急外来(診察室4室、重症処置室6室、経過観察室4室)ICU11床、CCU5床、HCU9床ほか後方ベッド ・基幹災害拠点病院 ・日本DMATを3チーム編成 ・地域周産期医療機関として、周産期・不妊部門32床、NICU小児循環器部門18床 ・救急患者搬送も多く、産婦人科も常時救急に備えた診療体制 ・先天性心疾患に対し検査・手術が可能 			
<p>紹介率</p>	<p>84.4% (H29年度)</p>	<p>82.7% (H28年度)</p>		<p>50.8%</p>
<p>逆紹介率</p>	<p>71.7% (H29年度)</p>	<p>59.6% (H28年度)</p>		<p>48.8%</p>
<p>その他地域との連携に関する項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期を脱した状態の患者は、他機関と連携し円滑な転院等に対応 ・当院の地域におけるシェアは40%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院であるが、在宅患者の急性増悪や連携医からの紹介患者はこれまで通りの受入体制を取っており、地域包括ケアシステムを担っていく急性期病院としての役割を果たしていきたい 		
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部環境 ・人口変化、社会保障などに大きな課題 ・内部環境 ・強みは、地域で高いマーケットシェア ・重症度の高い患者割合が高い ・多くの救急患者 ・手術部の稼働能力が高い ・医師数、スタッフの練度が高い ・弱みとしては①再診患者割合が多く外来負荷が高い。②退院後の患者フォローに関する地域連携に改善の余地がある。③移転整備より20年が経過し、ハード面の制約がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援の強化 ・(後方支援病院数の拡大) ・より多くの救急患者を受け入れるためには現在の急患室では狭隘 ・老朽化 ・救急専任の医師確保 ・小児科医及び産婦人科医を確保し、小児救急及び周産期機能を強化 ・精神科医の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い地域医療(急性期医療)、栃木県がん治療中核病院として、消化器がん、呼吸器がんを中心としたがん治療、結核、重症心身障害、成育(小児慢性疾患)、神経難病の公益性の高い政策医療(慢性期医療)等の提供を維持 ・地域医療支援病院として、地域医療連携をさらに強化 ・地域包括ケア病棟については、在宅等において療養を行っている患者の急性増悪時の受け入れ、治療後在宅等に戻す地域包括ケアシステムを推進すべく体制をさらに強化 ・2025年には回復期病床のみが大きく不足する推計から地域包括ケア病棟の増床及び転換は、これからの医療需要を見越して必須 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面の間は現在の医療及び介護の機能や規模が必要 ・既存機能を更に充実し、宇都宮市南部地区の救急受入病院としての機能強化と地域包括ケアシステムの中核的存在となる ・回復期の病床の増床が急務であることと併せて急性期病床の再編も課題 ・地域医療連携機能の更なる強化と訪問看護ステーションの設置を検討 ・宇都宮南部地区には地域医療支援病院がないことから、隣接する下野市、上三川町、壬生町を含めた地域の中核病院として地域医療支援病院の承認を受けることも課題

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名	済生会宇都宮病院	NHO栃木医療センター	NHO宇都宮病院	JCHOうつのみや病院
<p>病院名</p> <p>今後の方針</p> <p>今後地域において担うべき役割</p>	<p>・「高度急性期病院」であり、今後も、その機能を維持</p> <p>・増加すると予想される医療ニーズに応える</p> <p>・悪性新生物、神経系、循環器系、外傷等に対応できる病院機能</p> <p>・減少すると予想される医療ニーズに対する</p> <p>・少子高齢化による小児、産科の減少</p> <p>・現状の医療機能は当面は維持</p> <p>・産後ケア事業を実施</p> <p>・「とちまるネット」などのインフラを最大限活用</p>	<p>・救急部門の充実を図り、急性期患者の更なる受入体制を強化</p> <p>・病診連携・病病連携を更に推進</p> <p>・栃木県がん治療中核病院として県立がんセンターとともにがん患者の治療に対応</p> <p>・低侵襲治療である腹腔鏡手術等により、早期離床、早期改善、早期社会復帰が出来るような高度な医療の提供</p> <p>・地域包括ケアシステム構築における中心的な役割</p> <p>・急性期小児医療の充実</p> <p>・周産期医療体制の整備</p>	<p>・専門性の高い地域医療(急性期医療)の急性期機能の維持及び充実</p> <p>・消化器がん、呼吸器がんを中心としたがん治療の急性期機能を維持</p> <p>・地域包括ケア医療(回復期医療)の提供及び地域包括ケアシステムの推進をすべく体制の強化並びに充実</p> <p>・重症心身障害児者に対する医療については、</p> <p>・ショートステイ(短期入所)及び日中一時支援、ポストNICUへの対応をさらに充実させ、慢性期機能を維持</p> <p>・小児慢性疾患(成育)</p> <p>・については、隣接する栃木県立岡本特別支援学校との連携を維持</p> <p>・結核医療の機能を維持</p> <p>・難病医療ネットワークの基幹病院としての協力体制を維持</p> <p>・エイズ医療</p> <p>・専門協力病院(HIV感染合併結核)としての機能を維持</p> <p>・病院群輪番制(宇都宮市)の参加継続による救急医療の充実</p> <p>・障害者歯科医療</p> <p>・今後力を入れる必要</p>	<p>・宇都宮市南部地区の二次救急輪番病院としての機能を強化</p> <p>・救急受入体制の強化(内科・外科・小児科)</p> <p>・宇都宮南部地区の地域包括ケアシステムの中核としての機能を強化</p> <p>・介護老人保健施設の在宅復帰機能</p> <p>・地域医療連携室</p> <p>・地域包括支援センター</p> <p>・在宅医療支援のための拠点作り</p> <p>・診療部門のセンター化</p> <p>・消化器センター</p> <p>・透析センター</p> <p>・人工股関節センター</p> <p>・災害拠点病院としての機能を強化</p>
<p>今後持つべき病床機能</p>	<p>・現状の病床機能を維持</p> <p>・集中治療室の機能を拡張</p>	<p>・脳卒中・急性心筋梗塞に対応するため「血管内治療・検査センター」を整備</p>	<p>・2021年度の新病棟建替整備</p> <p>・地域包括ケア病棟を60床から40床を増床し100床の運用とする。</p> <p>リハビリテーションを提供する病床や在宅復帰を支援する病床並びに、現在は積極的に行っていない在宅等において療養を行っている患者の急性増悪時の受け入れ病床の整備</p>	<p>・急性期については</p> <p>・病棟数と病床数の再編が必要</p> <p>・回復期については</p> <p>・回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟の二種の病棟の運用が地域のニーズに合致</p> <p>・病棟再編に向けた検討を開始</p> <p>・急性期120床(うち高度急性期5床(3病棟))</p> <p>回復期86床(2病棟)合計206床(5病棟)を基本コンセプトとし、将来の新病院建設に向けたプラン策定を進める</p>
<p>その他見直すべき点</p>	<p>・手術室機能を拡張</p> <p>・3室を増室し、現在13室</p> <p>・手術支援ロボット、ハイブリッド手術室の導入</p> <p>・化学療法センターを平成29年度にリニューアル</p> <p>・平成29年12月から、口腔ケアの運用</p>		<p>・結核について、今後の需要を勘案しながら適正な病床数を検討</p>	<p>・院内情報ネットワークを整備、地域の医療機関との情報交換機能の充実も急務</p> <p>・病院施設や医療機器の老朽化が顕著</p> <p>・病院の移転も視野に入れた建替え計画の策定</p>
<p>具体的な計画</p>	<p>4機能ごとの病床のあり方</p>			

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

	済生会宇都宮病院		NHO栃木医療センター		NHO宇都宮病院		JCHOうつのみや病院		
	H28病床機能報告	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	H30病床機能報告 (稼働)340	2025年度	H28病床機能報告	2025年度	
機能ごとの病床数									
合計	660	660	344	344	(稼働)340	350	245	206	
高度急性期	484	484	12	12				5	
急性期	176	176	332	332	130	110	199	115	
回復期					60	100	46	86	
慢性期					150	140			
診療科の見直し			・将来(2025年度)新設:循環器科、脳神経外科の診療機能を充実						
具体的な数値目標	病床稼働率	85%以上(2025年度)		85%(2025年度)		86.6%(2025年度)		80.0%超(2025年度)	
	手術室稼働率								
	紹介率	80%(2025年度)		90%(2025年度)		60%(2025年度)		65%以上	
	逆紹介率	70%(2025年度)		70%(2025年度)		90%(2025年度)		40%以上	
	その他実績	平均在院日数12.5日以内、手術件数6,500件、救急入院患者数4,800名		手術件数5,000件		手術件数1,000件		全身麻酔手術700[件/年] 救急車応需 67% → 75%以上	
	人件費率	51%(2025年度)						50%以下	
	経営に関する項目、その他							収支率 100% → 102%	
地域医療介護総合確保基金の活用について	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの開設 ・宇都宮市小児輪番体制の確保 ・地域の小児救急医療体制の補強[小児救急電話相談事業] ・ハイリスク分娩の受入体制の確保 ・新人看護職員研修事業費補助金 								
その他							・当院は脳血管疾患に救急応需から回復期リハビリ、そして在宅復帰までの一貫した治療の地域における中核的存在となることへの期待が大きい		

「公的医療機関等2025プラン」および「新公立病院改革プラン」(抜粋)

病院名	栃木県立がんセンター	栃木県立リハビリテーションセンター			
保健医療圏	宇都宮	宇都宮			
区分	地方独立行政法人	地方独立行政法人			
策定期期	中期計画 H28(2016).03	中期計画 H30(2018).04			
病床数	許可	稼働	許可	稼働	
	計	291	225	153	153
一般および療養病床のうち機能別の病床	一般	291	225	153	153
	療養				
	結核				
	精神				
	感染症				
	高度急性期				
一般および療養病床のうち機能別の病床	急性期		225		
	回復期			120	120
	慢性期			33	33
	計				
診療科数	31		11		
特定の病床数(H28病床機能報告より)	救命救急				
	集中治療室(ICU)				
	ハイケアユニット(HCU)				
	脳卒中ケアユニット(SCU)				
	新生児特定集中治療室(NICU)				
	新生児治療回復室(GCU)				
	小児特定集中治療室(PICU)				
	総合周産期特定集中治療室(MFICU)				
	地域包括ケア病棟				
	回復期リハビリテーション病棟			80	
常勤職員数	緩和ケア病棟	24			
	医師	60		10 (H31.02.01)	
	看護職	238		88 (H31.02.01)	
	その他医療専門職	81		88 (H31.02.01)	
医療機関の現状と課題	外来患者数	471.2人/日 (H29年度)		延24,964 [人/年] (H29年度)	
	入院患者数	165.9人/日 (H29年度)		延26,995 [人/年] (H29年度)	
	一般・療養病床稼働率	60.9% (H29年度)		92.4% (H29年度)	
	一般病床平均在院日数[日]	13.6 (H29年度)		55.1 (H29年度)	
	救急患者数				
	手術件数	1,791 (H29年度)		39 [件/年] (H29年度)	
	うち全麻	1,157 (H29年度)			
特徴、政策医療(抜粋)	<p>【医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん専門病院として・高度で専門的な医療を提供 ・さまざまな病態に応じて必要な医療を受けられるよう・集学的治療の充実 ・低侵襲な鏡視下手術・食道、胃、大腸の内視鏡治療の実施 ・IMRT(強度変調放射線治療)やSBRT(体幹部定位放射線治療)等・高度な放射線治療 ・高度ながん化学療法を引き続き提供・他の医療機関では実施困難な最新の化学療法を提供 ・国内外の多施設共同研究に積極的に取り組む ・緩和ケアセンターの体制を充実 ・リハビリテーションスペースを拡充・がんと診断された時から患者の病態に応じたリハビリテーションを提供 	<p>【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療と福祉が一体となった複合施設の特長を活かし、・あらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的リハビリテーション医療を提供するとともに、・各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的リハビリテーションを提供する。 ・脳卒中、脳外傷、骨折等による運動障害、高次脳機能障害、失語症等のある回復期の患者に対し、・ ・FIM(機能的自立度評価表)の点数の低い重症患者を積極的に受け入れ、・ ・各分野と連携したリハビリテーションが必要な脊髄損傷患者や高次脳機能障害を伴った脳外傷患者等を積極的に受け入れ・ ・VF/VE(嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査)等を活用して、経管栄養や胃瘻設置の患者に経口摂取を目指したリハビリテーション医療を提供する。 			
	栃木県立がんセンター	栃木県立リハビリテーションセンター			

特徴、政策医療(抜粋)		<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児や発達障害児等に対し、…相談から診療、療育、教育に至る一貫した総合的なリハビリテーションを提供する。 ・脳性麻痺、小児運動器疾患等の障害児・障害者に対し、整形外科手術を実施する。 ・介護保険制度の適用外となる脳性麻痺、脳外傷、脊髄損傷、上肢・下肢の切断等の患者に対し、…継続的に外来リハビリテーション医療を提供する。
紹介率	94.0% (H29年度)	
逆紹介率	42.8% (H29年度)	50.4% (H29年度)
その他地域との連携に関する項目	<p>【医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の緩和ケアの質の向上を図るため、地域連携カンファレンスの実施、在宅療養支援機能を担う診療所や訪問看護ステーションとの連携強化、訪問診療の検討 ・都道府県がん診療連携拠点病院として ・緩和ケア研修やがん専門看護師の実習受け入れ等 ・がん医療に携わる医療従事者の育成に対して積極的に支援 ・放射線治療品質保証室による技術的な支援 	<p>【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院との連携を強化し、回復期リハビリテーション医療の対象となる患者を受け入れる。 ・…地域医療連携室を設置し、…入退院や在宅復帰に向けた連絡調整を強化する。
課題	<p>がんセンターならではの高度で専門的ながん医療の提供</p>	

病院名	栃木県立がんセンター	栃木県立リハビリテーションセンター
<p>今後の方針</p> <p>今後地域において担うべき役割</p>	<p>【医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関との的確な役割分担を意識し、あらゆる進行度のがん患者に対応 ・他の医療機関では診療が困難な高齢者に対するがん診療を積極的に実施 ・地域連携センターを設置し、日常的に積極的な対外活動を実践 ・がん患者のクリティカルパス ・地域医療連携ネットワークシステムを積極的に活用 ・あらゆる診療段階における医科歯科連携を推進 ・がん患者に特有な薬剤情報を調剤薬局と共有するなど、医薬連携を推進 ・近隣の医療機関からの受託検査を積極的に受け入れる ・退院調整を充実 ・在宅療養中の患者の緊急時の受け入れ等、状態変化に合わせて迅速に対応 	<p>【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボツリヌス療法等の新たな療法 ・ロボットスーツ等、先進的なリハビリテーション医療技術の導入について継続的に研究 ・リハセンターが有するノウハウ及び医療現場のニーズを県内のヘルスケア産業等に情報提供するなど、新たな医療機器の製品開発棟に貢献する
<p>今後持つべき病床機能</p>	<p>増加が見込まれる高齢がん患者への対応</p>	<p>【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・回復期リハビリテーション病棟を増床(40床)するとともに、回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準に適合する体制整備を目指す
<p>その他見直すべき点</p>		<p>【その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置】の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器について、計画的な更新・整備に努める。
<p>具体的な計画</p>	<p>4機能ごとの病床のあり方</p>	

機能ごとの病床数	栃木県立がんセンター		栃木県立リハビリテーションセンター		
	H28病床機能報告	2025年度	H30病床機能報告	2025年度	
合計	258	291	153	153	
高度急性期					
急性期	258	291			
回復期			120	120	
慢性期			33	33	
診療科の見直し					
具体的な数値目標	病床稼働率		91.4% (H34年度)		
	手術室稼働率				
	紹介率	95.0% (H32年度)			
	逆紹介率	40.0% (H32年度)		55.0% (H34年度)	
	その他実績	高難度手術 延べ60[件/年] (H32年度) 高精度放射線治療 IMRT延べ780、SBRT延べ20[件/年] (H32年度) 外来化学療法 延べ7,900[件/年] (H32年度)		リハビリテーション実施単位数 303,000[件/年](H34年度) 発達障害外来受診者数 7,400[人/年](H34年度) 整形外科手術の実施人数 45[人/年](H34年度) 重症患者の受入れ割合 30.0%(H34年度)	
	人件費率				
	経営に関する項目、その他	経常収支比率 100%以上 (H32年度) 医業収支比率 85%以上 (H32年度)		経常収支比率 100%以上 (H34年度) 医業収支比率 75%以上 (H34年度)	
地域医療介護総合確保基金の活用について					
その他	【業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置】の記述 ・病院施設の老朽化の状況や求められる機能を踏まえ、院内にプロジェクトチームを設置				

※栃木県立がんセンター及び栃木県立リハビリテーションセンターの斜字は本会議用に加筆(中)